さいたま市立宮原小学校
学校だより
令和7年9月30日　第6号

学校教育目標
・たがいに努める子(やる気)・たがいにきたえる子(元気)・たがいに手をとる子(勇気)

自分の頭で考える

井　上　　雅　史

先週の金曜日、今年度初めての通知表を、一人ひとりの児童に担任から手渡しました。今年度から通知表を年２回の発行としましたので、今年度初めての通知表です。これまでは、通知表をもらった次の日から長期の休業でしたが、今回は普通の週末ですので少し変な感覚かもしれません。今月は、この通知表をきっかけに、学年前半の取組を振り返り、学年後半に向けて、一人ひとりが新たな見通しをもつ時期にしてほしいと思います。

さて全く話は変わりますが、ある休日、私は自宅のソファーでスマートフォンをいじっていました。その時 iPhone17 シリーズの新機能などを紹介する記事をネットニュースに見付けました。その記事を読み終わると、スマホの使用時間についての条例が可決されたというニュースを見付けました。更にそのままニュースサイトを見続け、海外のスポーツ情報や災害の情報などもほぼリアルタイムに手にしました。一通り読み終わってふと顔を上げると…　妻も娘も黙ってスマートフォンを注視していました。ずっと同じ部屋にいたのですが、全く会話もせず、３人とも黙ってスマートフォンをいじっていました。おかしな風景です。これでは子どもたちへ指導できないなと深く自戒しました。

でもスマートフォンは便利です。スマートフォンがあれば、自分のペースで自分の好きな情報に触れることができます。気になったことは次々に情報をたどっていくことができます。とにかく自分の「知りたい」という欲をどんどん満たしてくれるので、スマートフォンを見ていると安心感のようなものを感じることができます。しかし、実はこの安心感の中に危険が潜んでいます。

人は(ネット情報に限らず)自分が獲得した情報が正しいかどうか分からない時、白黒はっきりさせて安心したくなるそうです。自分で調べて答えを見つけることができれば良いのですが、それはとても大変です。そんな時、「自分が言ってほしいことを言っている人」や「自分の考えに近い人」を見付けようと行動する傾向が人にはあります。スマートフォンはこれが簡単にできてしまいます。また逆に、不安を紛らわすために、真偽に関わらず自分に都合の良い情報を発信することもあるそうです。これもまた、スマートフォンなら簡単です。

自分に都合の良い情報を求める人々と自分に都合のよい情報を発信する人々が情報をやり取りすることで真偽の分からない情報が増え続け、更に安心しようとする人が情報を求め続けたり発信し続けたりします。その結果、真偽が分からない大量の情報がすごい速さで世界中へ広がっていきます。この状況を「インフォデミック(情報氾濫)」というそうです。

また、スマートフォン(内のアプリケーション)は、履歴を分析し、その人に合わせた情報を表示します。ですから、使えば使うほど、インフォデミックの大量の情報の中から、自分に都合のよい情報が集まってきます。そして、それ以外の情報は、自分から求めない限りほとんど表示されなくなっていきます。このような状況を「ネットバブル」といいます。

ネットバブルは、自分に都合のよい偏った情報だけでできた泡の中に囚われた状態です。囚われていますが、本人にとっては自分が正しいと思う情報の中にいますので、とても居心地が良い状態です。こうなると、大人でも子どもでも、自分にとって都合の悪い情報や他の人の考え方を全く受け入れられなくなります。これは大変危険な状態です。

この泡に囚われないためには、「この人がこう言っている」と一方の意見にだけ触れ続けるのではなく様々な考えに触れ、それらを受け入れながら「事実」を見出すようにすることが大事です。更に、できるだけ新鮮な情報に触れること。信頼できる複数の出典や複数の機関が発信した情報に当たること。人の考えならば、できるだけ色々な意見に触れること。そして、最も大事なことは、自分の頭で考えることです。これから先の未来の社会も、人は一人で生きていくことはできません。ネットの世界とリアルな世界の両方で、様々な価値観、考え方の人と協働することが当たり前になると思います。

話が大きくなってきてしまいましたが、子どもたちの未来の幸せのために今我々大人ができることは、様々な考え方に触れて自分の頭で考え判断し成長することの大切さと、相手を尊重し協働することの大切さを、大人の姿で丁寧に伝え続けていくことではないかと思います。